

技の肖像



仙臺筆筒の木地に漆塗りを施す菅野裕喜さん

塗師

英語で「Japan」が「漆」を意味するように、漆塗りは日本が世界に誇る塗装の伝統的な技法である。漆塗りの塗師は、漆を薄く均一に塗っては研ぎ磨く工程を何度も繰り返す。こうして、木地の表面に漆の皮膜を重ね、艶やかな光沢を作り出す。仙臺市内の工房で、仙臺筆筒の塗りを手掛ける菅野裕喜さんは、「仙臺筆筒の漆塗りは、最初に行う素地の調整で仕上がりが決まる。いかに均一な平面を作り出せるかどうかにかかっています」と話す。

木地の表面を丁寧に砥石で研いで極限まで平らにする。そこに、仙臺筆筒の伝統的な塗りの技法である「仙臺木地呂」を施すと、鏡面仕上げの底に透けて見える木目が引き立つ美しい塗りが完成する。

幼い頃から大工だった祖父に憧れ、ものづくりに関心を持った。高校生の時には、



1. その日の温度や湿度に合わせて漆を最終調整する
2. ヘラや刷毛、刃物などさまざまな道具を使って漆塗りが施される
3. 伝統技法が生きた仙臺筆筒オーディオスピーカー HBS10。「漆塗りが音質変化に影響を及ぼす」という検証結果から生まれた新しい仙臺筆筒の形だ

定義如来（仙臺市）の五重塔の姿に衝撃を受けた菅野さんは、宮大工の夢を志した。石巻高等技術専門学校（石巻市）で木工を学び、あの五重塔の建築に従事した宮大工の棟梁を訪ね、弟子入りを志願した。しかし、職人に空気がなかったこともあり、宮大工の道は閉ざされてしまったという。

「その後は、専門校の先輩の仕事を手伝いました。そのとき仙臺筆筒と出会い、塗りの職人になることを決心しました」

先輩の紹介で、いまの師匠である長谷部嘉勝さんに弟子入りした菅野さん。13年経った昨年12月に、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会から伝統工芸士の認定を受けた。「これまで培ってきた技と感性をさらに磨いて、仙臺筆筒の伝統をつなぐ力になりたいです」という決意を胸に、菅野さんは新たなステージへと歩み出した。

問い合わせ
有限会社長谷部漆工

仙台市青葉区郷六葛岡下 10-4
TEL : 022-302-1505
https://hasebe-sikkou.jp/



みやぎの優れた技能者を表彰 平成30年度宮城県職業能力開発関係表彰式

宮城県内の産業の振興・発展に寄与した技能者などを表彰する平成30年度の「宮城県職業能力開発関係表彰式」が11月30日、県庁で行われた。

表彰式は、卓越した技能で業界の振興に貢献した「卓越技能者」と、技能の研さんに励んでいる「青年技能者」のそれぞれ10人が表彰された。卓越技能者の表彰を受けた、東北発電工業株式会社利府製作工場（利府町）の村上純一さんは、過酷な条件下でも、的確に作業を行



卓越技能者の表彰を受ける村上純一さん



青年技能者の表彰を受ける佐藤博幸さん



平成30年度 宮城県職業能力開発関係表彰式
建具製作や水産物製造などさまざまな技能者が卓越技能者の表彰を受けた

う半自動アーク溶接の高い技能などが評価された。青年技能者の表彰を受けた、プラスエンジニアリング株式会社仙台事業所（村田町）の佐藤博幸さんは、技能検定の放電加工特級に合格し、微細穴加工をこなす高い技術などが評価された。また、社内外で若い技能士の育成に積極的で、将来の業界におけるリーダー

として期待された。卓越技能者の表彰は39回目、今回を含め、668人が受賞。一方、青年技能者は16回目で、164人が受賞している。

業界関係者から直接話を聞く 新規大卒者向け「業界研究セミナー」

12月25日、2020年3月に大学院・大学・専門学校等を卒業予定の学生などを対象とした新規大卒者向け「業界研究セミナー」がAER（仙台市）で行われた。第一部では、株式会社アフターリクルーティング



良い企業を探すポイントを説明する池谷昌之さん



IT業界やエンジニアの仕事の魅力を話す高谷将宏さん

（仙台市）の池谷昌之代表が、「2019年企業の採用動向と自分に合った企業の見つけ方」と題して、就職活動を始める前の準備や就職活動のポイントなどについて話した。

池谷代表は、「良い企業

を見つけるためには、できるだけ多くの企業の情報に触れることが重要です。知っている企業や業種を増やし、幅広い選択肢の中から研究を進めてみましょう」と参加者に呼びかけた。

第2部では、ものづくりやIT、建設など10の業界ごとに分かれたブースで、参加者が興味のある業界の関係者の話を聞いた。

「IT業界」のブースでは、一般社団法人宮城県情報サービス産業協会に所属する株式会社エヌエスシー

（仙台市）の高谷将宏さんが、「私たちの業界は、みなさんの日常で活用されるさまざまなサービスに関わっています。同業者間での取引が多いのも特徴で、宮城県でも企業同士がとて良い関係性を築いています」と説明した。

同ブースで話を聞いた学生は、「女性でも活躍できる業界で、女性エンジニアが増えていると聞いたので、就職先の選択肢に加えて検討したいと思っています」と話した。

ものづくりのプロから学んだ成果を発表 平成30年度みやぎクラフトマン21事業 成果報告会

1月16日、仙台工業高等学校（仙台市）で「みやぎクラフトマン21事業」の成果報告会が行われた。同事業は、宮城県内の工業系高校と企業などが連携し、ものづくり人材の育成に取り組むもの。12年目の取り組みとなる今回は、県内13校の高校生が、活動内容や習得した知識と技能などについて発表した。

気仙沼向洋高等学校（気仙沼市）の発表では、機械技術科の生徒が、電子機器組立て作業3級の技能検定合格に向けたものづくりマイスターから指導を受けた講習会について報告。生徒は、「いままで自分が行っていた方法と、今回マイスターの方に教えていただいた方法とのさまざまな違いに驚きました。教えてもらった方法で検定試験に臨みたい」と話した。

生徒は、「企業の方と連携してコマ製作に取り組めたことで、社会観や職業観を身に付けることができました」と感想を話した。

報告会では、生徒の活動報告のほかに、工業系高等学校教諭による研修会受講の報告も行われた。



技能講習会などについて報告する気仙沼向洋高校の生徒



伊具高校の生徒からは、コマ製作のほか、5S研修などの報告もあった